

第20回京都市都市緑化審議会 摘録

1 開催日時

令和7年9月1日（月）午後1時30分～3時30分

2 開催場所

京都市役所本庁舎4階 正庁の間

3 出席者（敬称略）

委員11名出席

会 長	深町	加津枝
副会長	福井	亘
委 員	今西	純一
委 員	内海	日出子
委 員	黒木	要州
委 員	高溝	広宣
委 員	谷	萌子
委 員	橋本	佳織
委 員	町田	誠
委 員	森山	敦子
委 員	山田	豊久

事務局

建設局みどり政策推進室	室長	永田	盛士
	事業促進担当部長	藤澤	宏太
	みどり企画課長	山本	真史

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 京都市挨拶
- (3) 議題
 - ・次期「緑の基本計画」について
- (4) 報告
 - ・令和7年度みどり政策推進室の主要な事業について
- (5) 閉会

5 会議録

[摘録]＜委：委員、事：事務局＞

(1) 議題

〔次期「緑の基本計画」について〕

(質疑応答)

委：

【4章 一人一人にできること】が後半の冒頭に移動しているが、「行政だけでなく、京都に関わる読者のみなさまと一緒にみどりを守り育んでいく」〈p49〉という説明文について、計画が行政だけでなく市民の積極的な参加によって成立することを示すため、もう少し文量を増やすべきではないか。

「おすすめアクション」の内容も、その説明文の中に含めることで、アクションによって市民の暮らしにみどりが感じられ、触れ合い、みどりの未来に繋がることが分かるようにすべきである。

委：

これまで多くの議論を重ねて素案の段階に達しているが、今日初めてこの資料を見る方もいると思うので、違った視点での御意見をいただきたい。

委：

部会での議論において、事務局はこれまで様々な意見を反映してきている。新しく審議会に加わった委員の方々の御意見を参考にしたい。

委：

前回の部会で指摘があった難しい言葉への振り仮名や、具体的なアクションの説明がしっかり反映され、文章が非常に分かりやすくなったと感じている。

委：

継続して参加している部会のメンバーからは、概ねこれで良いとの評価を得ている。部会員以外の皆様の意見はいかがか。

委：

前年度から参加しているが、どんどん計画がブラッシュアップされて非常に良い冊子になっている。

「おすすめアクション」については、分かりやすく、文字を大きくするなど、アピール度を高めると良いのではないか。

委：

誌面案を拝見し、非常に魅力的な内容になっていると感じた。しかし、一市民として見た場合、この冊子のターゲット層が少し限定的ではないかと感じる。

【2章 みどりの魅力】などは、小学生や幼稚園児にも読めるよう振り仮名を振ったり、子ども向けの文体にしたり、また海外からの留学生にも理解しやすいような工夫をしてはどうか。

これまでの計画で長年積み重ねてきた取組について、どのように取り組んできたのかをもっとアピールできると良い。

事：

この計画は都市緑地法に基づき策定しており、特定のターゲット層に絞るのではなく、京都市民や京都市を訪れる方全てを対象としている。これまでの計画があまり見てもらえなかったという反省から、今回は多くの方に手に取ってもらえるよう策定を進めてきた。子どもたちにも手に取ってもらえるよう、更に改善を検討したい。

京都市のこれまでの取組については、本文案の<p52>に記載のとおり、平成5年から各種計画を策定し改善を図っている。みどりに関する計画は短期的な成果が出にくいため、理念を継続し改善していくことが重要であると認識している。改善点のアピールについては工夫する。

委：

京都市の政策については、留学生も含めて関心を持たれているところだが、海外の方への対応についてはどう考えているか。

事：

本計画は、市民だけでなく観光客を含む多くの方に見てもらいたいと考えている。電子データであるため、より深く興味を持った者が更に情報を得られるようリンクを設けるなどの工夫を検討している。海外の方向けには、可能な範囲で英語版の作成や翻訳も反映させたいと考えている。

委：

概要版の作成についても考えているのか。

事：

手に取ってもらいやすいように、一通りの形式だけでなく、多様な層に情報が届くような工夫を検討している。

委：

他の委員の意見と重なるが、【4章 一人一人にできること】について、初めて見る一般市民には分かりにくいと感じるので、もう少し説明を加えるべきだ。

「おすすめアクション」では、「みどりを感じる」や「ふれあう」行動だけでなく、「未来に受け継いでいく」に該当するアクションも、具体的な例を挙げられると良い。

委：

子育て支援の視点から、「おすすめアクション」に子育て世代が小さい子どもと一緒にみどりを楽しむ行動を加えてほしい。具体的な行動が分からない家庭も多いと思うので、リンクを設けるなどの工夫をして、子どもたちがみどりの中で成長し心豊かになることを伝えるアクションを入れてはどうか。

事：

子育て世代や子どもへの教育は非常に重要であると認識しているので、御意見を反映したい。さらに、どのような内容があればより良いか、具体的なアイデアをいただけないか。

委：

例えば、公園や自然体験ができる場所について、どこに行けば良いか分からない家庭が多いのが現状だ。これらの紹介や、みどりの大切さだけでなく楽しみ方が分かるような工夫をお願いする。植物園を例にとれば、季節ごとの見どころがすぐにリンクで分かるような、楽しみ方を知ってもらえるような内容にすべきだ。

事：

御意見を取り入れ、具体的な情報にアクセスできる形に改善していきたい。

委：

市民向けに写真を充実させ、読みやすくなっている点は素晴らしい。一方で、専門家の立場からするとかえって分かりにくい部分もある。

【5章 計画の概要】「みどりの配置方針」の視点 2<p59>で国土交通省の緑被率目標「3割以上」を京都市が既に達成とされる一方、世界の動向では目標が3割以上でも十分でない。樹冠率40%を掲げる都市もあり、目標達成を強調するのは適切だが、より高い目標設定を検討してはどうか。緑被率の「維持向上」という表現は世界動向と比較して消極的な印象を受けた。

計画の資料編には、具体的施策と達成状況の情報を充実させてはどうか。基本計画は市民への情報伝達のみならず政策の記録としても重要である。

緑被率の定量的な数値目標が示されていない点については、説明が必要である。緑被率向上の困難さや将来のマイナス要因も示しつつ、現状値の維持でも良いので数値目標を示し、それを維持する努力の説明を加えてはどうか。みどりの質の向上には賛成だが、定量的な目標値がなければみどりが減っても計画に反映されず、気にされない事態になり得る。

計画のモニタリング項目として緑被率を含めることを提案する。これにより委員会でみどりの状態を確認し、次のアクションにつなげられる。

事：

御指摘は理解している。質に重点を置きながら進めたいという思いから、数値的な表現を差し控えている次第である。

これまでは数を増やすことをメインにしてきたが、国も数値だけでなく質に重きを置き始めていると考えている。明確な数字は記載しないが、京都市としては現状の数値以上の維持向上に取り組むことを示している。

委：

もし数値目標を書かないのであれば、「維持向上に努めていく」ことについて、10年後にそれが達成できたかをモニタリングできるようにすべきではないか。

委：

基礎自治体が主体的に緑の基本計画を作るという歴史的背景があり、国の「緑の基本方針」では突拍子もない目標値を掲げられない中で、3割という目標値が定められたのではないかと推測する。

みどりの質の向上については、「多角的かつ総合的な視点からみどりの質の向上に取り組みます」〈p59〉という部分で、質の向上とは何かを詳しく書くべきだ。数値目標は国の基本方針で3割と書かれているが、質をどんどん高める必要があるということを記載すべきである。

事：

これまでの審議会・部会での議論の中で、目標は数値化しない方針で進めてきた。緑被率については、数値目標とはしないものの、モニタリングの中でしっかりと把握していきたい。

委：

その方針を積極的に行っていると見えるような、消極的ではない表現について工夫してほしい。

委：

誌面は非常にきれいに出来上がっており、写真も良く、市民向けに分かりやすいと評価する。

数値目標を出さないのであれば、計画の終期である 2035 年の京都市にとって理想のみどりの空間は一体どういう形なのか、ということを示してはどうか。

現在の緑被率が、京都市のみどりを増やすために本当に必要なのかが分からない。国が 3 割、海外では 4 割という話もある中で、文化都市である京都にとって 5 割、4 割が必要なのかも考えるべきであり、そのあたりを計画に含めてはどうか。

モニタリングについてだが、市民アンケートや庁内ヒアリングの詳細をもう少し詳しく書いてはどうか。心理学や社会学の研究調査で用いられるような数値的な見せ方も良いのではないか。

事：

将来の姿の提示方法についてだが、明確に 10 年後ということではないが、イラスト化して示したいと考えており、イラストと解説によって表現していく予定である。イラストの作成に当たっては、事務局から場所や時期、みどりのイメージを明確にイラストレーターに提示して、進めている。

委：

イラストについては、これまでの議論がうまく表現されるよう、事務局には最大限の工夫をお願いする。

委：

【第 3 章 みどりの展望】の「平面図」について、どういう図なのか具体的に分かりやすい名称にすべきだと感じる。

「おすすめアクション」は良いアイデアだが、市民だけでなく、民間ビルの屋上緑地等、事業者向けのアクションもあると良い。

事：

平面図のタイトル変更を検討する。また、事業者向けのアクションも取り入れていきたい。

委：

本日は、新たな視点での意見を多数いただいた。事務局においては、本日の議論を踏まえて対応願いたい。

(2) 報告

〔令和7年度みどり政策推進室の主要な事業について〕

(質疑応答)

委：

宝が池公園の整備はこれから行われるのか。

事：

宝が池公園については、今年度中に設置を許可し、工事に入る予定である。

委：

整備に当たり、点字ブロックは必ず黄色にしてほしい。弱視の方は黄色を頼りにしている。グレーの床に同系色の点字ブロックが付いているような建物は非常に見えにくく、どこに設置されているか分からない。屋内外を問わず、黄色の点字ブロックを設置してもらいたい。

事：

工事自体は事業者によって実施されることとなるが、京都市から事業者に「黄色の点字ブロックにしてほしい」といった意見があった旨を伝達したい。

委：

有料の屋内遊び場の料金はいくらぐらいを予定しているか。

事：

事業者の企画にかかる費用などによって変動するものであり、最終的には、事業者においてオープンまでに決定される予定である。決定次第、公表予定である。

委：

子どもたちが気軽に遊べるような場所になることを願っている。

委：

事業者構成員の中に、他の自治体で子どもたちが遊ぶ施設を運営している「飛騨五木株式会社」という実績のある企業が含まれている。岐阜県各務原市の施設だが、平日は子ども一人当たり600円程度の料金設定で、様々なレンタル品も含まれている。宝が池公園の施設もそれに近い入場料が設定されるだろうと推測される。このような拠点施設が整備されることで、公園を訪れる人々

の構成も大きく変化する可能性があるため、多くの世代や家族連れが訪れるような拠点となるよう、尽力してもらいたい。

委：

公園に関わる地域の方、企業の方、行政の方が連携し、議論を積み重ねてきたと認識している。宝が池公園でも多様な関係者が参加する協議会が発足しており、その議論を踏まえて事業が進められている。事務局においては、本日出された意見も踏まえ、更に事業を進めてほしい。